

編集後記

わが城西大学経済学会が、その機関誌「城西経済学会誌」を創刊致しましたのは、昭和40年4月、すなわち、城西大学の開学とその時を同じくしております。爾来、今日に至る迄、11巻を重ね、さらに昭和48年よりは「城西経済学会誌別冊・城西人文研究」を加えて、総計26冊の雑誌を刊行して参りました。掲載論文の総数は、延168篇の多きにのぼっております。

論文の内容は、経済学・経営学・商学を中心として、広く関連の社会科学全般に亙るのみならず、人文科学・外国語学の分野にも及び、頗る多彩なものとなっておりますが、これは、わが城西大学において、社会科学・人文科学・外国語学関係の一般教育学科担当の諸先生は総て経済学部にも所属し、齊しく城西大学経済学会の会員として参加されていることに拠るものであります。

いわゆる専門教育と一般教育とが、只に学生教育の面における協力に止らず、学問研究の場においても亦、聊かの違和感もなく渾然一体となって活動しているという、城西大学の学風を如実に反映しているところと言ってよいであらうでしょう。近時、盛んに唱道されて参りました「学際的研究」といった方向への発展のためにも、こうした姿勢は今後とも堅持して行きたいと考えております。

「城西経済学会誌」第1巻を編集されましたのは、現会長であられる、城西大学経済学部長・武市春男先生でありました。わたくしは、第2巻の編集を命じられまして以来、途中、第5巻第1号（教養特集）を貞末堯司氏に、第5巻第3号および第6巻第1号を渡辺好章氏に、「城西人文研究」第1号を貞末氏ならびに森祖道氏に、それぞれ担当をお願い致しました以外は、専ら編集の任

に当って参りました。茲にようやく十年余を閲したのでありますが、回顧致しますれば、長くも亦、短かき歳月でありましたことを痛感しております。そしてまた、そこには少からぬ感慨を覚えるものであります。

この間、ともかくも大過なきを得ましたのは、城西大学経済学会の委員として、編集・庶務・会計を分掌され、熱心に協力されきたった先輩および同僚の諸氏は素より、諸事万般に互りご教示を賜わりご支援を戴いた会員各位、さらには、終始綿密にして周到なる努力を傾けられた制作担当の慶応通信株式会社のスタッフ諸氏を含む、数えきれない善意の関係者のご好意とご高配のたまものでありますことを銘記し、謹んで感謝の意を表したいと存じます。

この度、城西経済学会誌第11巻および城西人文研究第3号を合わせた「城西大学開学十周年記念論文集」の編集を終えるに方りまして、従前の例を破り、初めて、世のいわゆる「編集後記」なるものを巻末に付しましたのは、「沈黙は金」と頑なに信じて参りましたわたくしの考え方の上に、若干の変化が生じたからではありますが、所詮は、省みて忸怩たる想いが残るのみであります。

庶くは、今後ともあい変りませず、仮借なきご叱正と、望み得べくんば、一層の建設的なるご提言とを、会員諸氏をはじめ大方の皆様より、引続き賜わりますことが出来ますよう、伏して願ひ上げる次第であります。

(昭和50年8月中旬。編集委員代表・井口大介識。)